

事項	ユリ(アカプルコ)の抑制栽培におけるプレルーティング効果		
ねらい	<p>高温期に植え付けするユリの抑制栽培において、アカプルコは上根の発達が抑えられ、葉焼け、ブラインド等の発生により切花品質が低下することから、プレルーティング(定植前に発根を促す)による障害防止と品質向上効果が明らかになったので参考に供する。</p>		
指導参考文献内容	<p>1 プレルーティングの処理効果</p> <p>1) 障害防止効果 プレルーティングにより奇形花、ブラインド、葉焼けの発生が減少する。</p> <p>2) 切花品質向上効果 花蕾数、切り花重が増加し採花率が向上する。</p> <p>2 プレルーティングの方法 コンテナ等に湿ったピートモスを2cm程度敷いて、その上に球根を並べる。さらにその上に湿ったピートモスを5cm程度被せる。その後、13℃で3週間程度冷蔵する。</p> <p>3 プレルーティング後、定植時の発根状態。 根が多数発生し、2～3cm以上伸びた状態。</p>		
期待される効果	<p>市場の需要が高いアカプルコの抑制栽培で切花品質や採花率の向上がはかられる。</p>		
利用上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>抑制栽培は施設利用とする。</li> <li>凍結球根を利用し、解凍後にプレルーティングを開始する。</li> <li>定植時は、寒冷紗等で高温にならないようにする。</li> <li>定植時は、芽や根が伸びているので球根を丁寧に扱う。</li> </ul>		
担当	フラワーセンター21あおもり 栽培開発部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成9年度 フラワーセンター21あおもり試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 定植時の球根の状態 (平成9年 フラワーセあおもり)

品 種	プレルー ティング	出芽長 (cm)	球 重 (g)	発根程度
アカプルコ	無	2.3	61.6	0
	有	12.7	68.6	3
カサブランカ	無	3.9	98.5	0
	有	23.2	108.0	4

注) 発根程度: 0 (発根なし)、1 (上根発生1cm未満)、2 (上根発生1~2cm)  
3 (上根発生2~3cm)、4 (上根発生3cm以上)

表2 採花期 (平成9年 フラワーセあおもり)

品 種	プレルー ティング	発蕾期 (月. 日)	採花日 (月. 日)	到花日数 (日)	採花率 (%)
アカプルコ	無	8.28	10. 8	65	86.2
	有	8.21	9.26	53	100.0
カサブランカ	無	9. 5	10.29	86	100.0
	有	8.28	10.13	70	100.0

注) 発蕾期: 出芽株の50%が発蕾した日

表3 切花品質 (平成9年 フラワーセあおもり)

品 種	プレルー ティング	切り花長 (cm)	葉 数 (枚)	花蕾数 (個)	茎 径 (mm)	切り花重 (g)	奇形花 発生株 (%)	ブラインド 率 (%)	葉焼け 発生株 (%)	葉焼け (枚/株)
アカプルコ	無	105.7	34.6	3.3	7.0	89.4	64.0	56.0	100.0	11.8
	有	105.1	33.5	4.3	6.8	103.0	16.7	8.3	87.5	3.7
カサブランカ	無	115.7	44.4	3.5	8.2	140.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	有	113.9	45.4	3.7	7.7	138.0	0.0	0.0	0.0	0.0

耕種概要

- (1) 栽培環境: ガラス温室
- (2) 定植月日: 8月4日
- (3) 供試球根: 輸入球根: アカプルコ (球周: 16/18cm、芽の状態: 1~15cm出芽)  
カサブランカ (球周: 16/20cm、芽の状態: 1.5~2cm出芽)
- (4) 栽植様式: 畦幅110cm、株間15cm (中央30cm)、6条植え
- (5) 施肥量(kg/a): 堆肥450、ようりん25、過燐酸石灰25  
N: P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>: K<sub>2</sub>O=1.2:1.2:1.2
- (6) 遮 光: 定植~9月12日まで遮光50%で遮光した。

プレルーティングの方法

